IGENGO Lab.

団体案内

私たちのミッション

ことなる異を楽しむ世界を創る

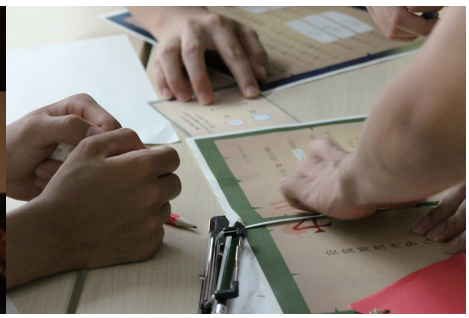
異言語 Lab. はメンバーの 7 割がろう者 (手話を言語とする人)、難聴者 (聞こえづらい人)、3 割が聴者 (聞こえる人) です。

手話を第一言語とした集団です。そして私たちは聞こえないことを、「できない」ではなく、「違い」だと捉えています。

そんな異言語 Lab. だから創り出せるものがあります。

それが、異を楽しむ世界を創ることです。

異言語 Lab. では、目の前の人に自分の想いを伝えるためにはどんな方法があるのか、言語の壁を超えるコミュニケーションの形を創り出していきます。そして異なる人・言語と向き合うことの面白さを感じる機会を世界中に広げていきます。



代表からのメッセージ

様々な人と繋がり、通じ合い、笑いあいたい―

この異言語脱出ゲームは、私自身の思いと、ひょんな幸運の連鎖で生まれたゲームです。

「今日の夜にやる謎解きゲーム、一人参加できなくなったからどう？」と友人に誘われ、後日、そのゲームの体験を興奮気味に職場の上司に話したことから全てが始まりました。

上司の「あら、これ、交流会でやってみたらいいじゃない」の軽い一言で、私の職場のろう・難聴の子どもと聴者の社員の交流企画で、謎解きゲームを実施することになりました。

この交流会に参加した多くの方々の後押しを受け、思いがけず、手話をテーマにした謎解きゲームがどんどん大きくなり、異言語脱出ゲームが生まれました。

急速にテクノロジーが進み、ありとあらゆる情報が行き交っている現代。手話は言語だと認識されつつあり、街の行く先で「聞こえない」と伝えれば、筆談やジェスチャーで会話する人が増えてきました。

そんな今、もっともっと様々な人と通じ合える世界が創り出されてもいいはずです。その未来の創造は、異なる人、異なる言語と関わった体験から生み出されるものだと私たちは信じています。

私たち異言語 Lab. では、異言語脱出ゲームなどで、この体験を創ります。普段の日常ではなかなか出会わない、関わることのほとんどない者同士が、出会い、共にひとつのことを成し遂げていく。それも楽しみながら。それが異言語Lab. の強みです。

異言語との融合エンターテイメント体験によって、「伝え合う」をテーマにした芸術文化体験によって自分とは異なる者と繋がり、通じ合い、笑いあえる場を提供していきます。

異言語 Lab. を通して、未知なる世界に戸惑いを感じたり、なかなか通じなくてもどかしく思ったり、通じ合えて胸が熱くなったり、次なる世界にワクワクしたり、多くの感情を味わうことができるでしょう。異なる世界への一歩を踏み出し、新たな価値観が芽生えることでしょう。

この芽生えが、日常のちいさな何かと結びつき、それがおおきなうねりとなり、通じ合える世界を創るエネルギーになれれば、と願っています。

一般社団法人 異言語Lab.
代表理事 菊永ふみ

異言語 Lab. の沿革

2015年 6月	福祉型障害児入所施設でグローバル金融機関の社員とろうの子ども達の交流企画として「謎解きゲーム」を実施
2015年10月	異言語脱出ゲームを初開催
2018年 4月	一般社団法人『異言語Lab.』設立

異言語 Lab. の実績

京都国際映画祭、沖縄国際映画祭、NHK、国立国語研究所、UBS 証券株式会社、Canon 株式会社、NTT グループ、高知県黒潮町、千葉県習志野市、千葉県君津市、筑波大学附属駒場高校、愛知教育大学岡崎中学校、21-21DESIGNSIGHT、文化庁「文化芸術収益力強化事業」

and more ...

事業紹介

「異なる人」や「異なる言語」を通じた
能動的なエンターテインメント体験と
「伝え合う」をテーマにした芸術文化体験を提供し、
世界中の人と“新しい価値”をうみだす

異言語 Lab. とは、異なる言語を使用する者同士から生み出されるコミュニケーションの試行錯誤を通して、ひとつひとつの言語の魅力を探り合い、新しいコミュニケーションの形を探求していくラボラトリー (実験室) です。

下記の事業を展開しています。

事業 1

異言語脱出ゲームの企画・実施

- 依頼者・団体のニーズに合わせたコンテンツ制作・提供
- 企業研修・自治体イベント・教育機関への提供

事業 2

視覚言語の創造性や可能性を研究・開発

- 「伝え合う」をテーマにした研究開発協力・展示協力
- 視覚言語の可能性を発見するワークショップの開発・提供
- 手話・視覚言語をテーマにした作品制作・監修
- 異言語ゲームキットの制作・販売

事業
1

異言語脱出ゲームの企画・実施

日本手話 × 日本語 (音声) 2 つの言語を謎解きゲームで体験する

近年、体験型エンターテイメント「謎解きゲーム」市場が急成長しています。異言語 Lab. は謎解きゲームに手話、筆談、身振り、音声等を盛り込み、『異言語脱出ゲーム』を考案しました。日本手話と日本語 (音声) を織り交ぜた謎の数々は、聴者とろう者・難聴者が一緒にゲームに参加し助け合うことで解いていくことができる新感覚スタイル。

そしてこれまでになかった全く新しい『非日常を体験できる』ゲームとなっています。

演出 × **仕掛け**

進行役による無音で全員に聴かせる手話語り。
手話と音声が同時に進行していくプロローグ。
異文化の世界へ誘い、共に向き合う気持ちを高めていきます。
ここで手話を絡めたアイスブレイクをしたり、
謎に使う手話を一部、参加者に教えたりしていきます。

ろう者・難聴者と聴者がお互いに伝え合うことを
意識し、プログラムを制作しています。
手話や音声など、ろう者・難聴者と聴者が
共に協力しなければ解けない謎が仕掛けられています。

異言語脱出ゲームを使ってできること

- 依頼者・団体のニーズに合わせたコンテンツ制作・提供
- 企業研修・自治体イベント・教育機関への提供

事業

2 視覚言語の創造性や可能性を研究・開発

異言語 Lab. は手話を第一言語とした集団です。手話や視覚言語が織りなす、豊かさは、私たちの日常の中にあります。視覚言語の一つ一つの豊かさを発見し、共有することで、異を楽しむ世界を作っていきます。

「伝え合う」をテーマにした研究開発・展示への協力

貴社・貴団体の技術を活用して、何かを開発し、
視覚言語ならではの可能性を共に見つけたり、
美術館や博物館で「伝え合う」をテーマにした
展示を行ったりしてみませんか。

どんなことでもお気軽にご相談ください。

新しい領域へと、「伝え合う」の可能性を
共に広げていきましょう。

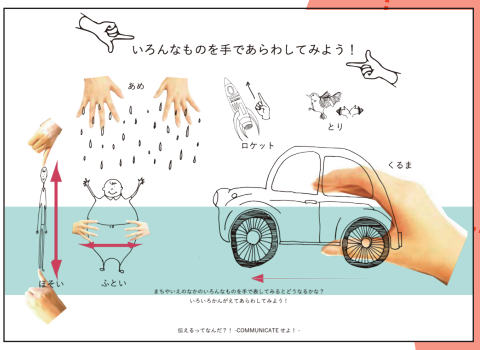
視覚言語の可能性を発見するワークショップの開発・提供

「もしも世界に音がなかったら?」
「もし宇宙人が話しかけてきたら?」

私たちはいつも声の「言葉」を使って、
人に想いを伝えています。
しかし、世の中には言葉では切り取れない想いや
考え、体験がたくさん溢れています。

では、そうしたものを伝えるには
どうしたらいいのでしょう?

「言葉」ではない方法で、
自分の想いを伝える新しいコミュニケーションを
みんなと一緒に考えて創ってみましょう。

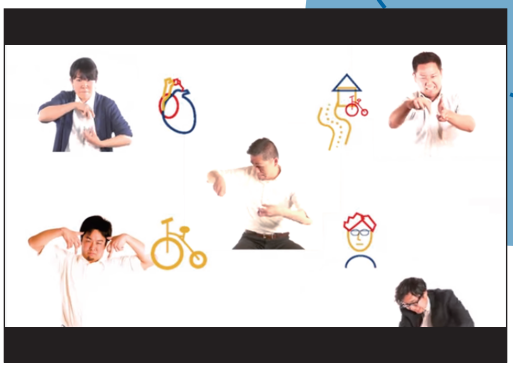


貴社・貴団体のご要望に応じて、
オリジナルのワークショッププログラムを考案し、提供することができます。
お気軽にご相談ください。

III 手話・視覚言語をテーマにした作品制作・監修

手話や視覚言語をテーマにした
作品制作・協力ができます。

ろう者の手話監修者、アートディレクター等が
制作・監修・協力します。



IV 異言語ゲームキットの制作・販売

手や身体で伝えてつくる、
新感覚コミュニケーションゲーム
「Shapeit!(シェイプ イット!)」や、

どこでも遊べる異言語脱出ゲーム「異言語箱1」など、

視覚言語の世界をヒントに
ゲームに落とし込んだグッズを展開しています。

これらを通して生まれるコミュニケーションは
国籍や年齢などを、誰にでも楽しめるツールに。

様々な「異」をいつでもどこでも体験できる
グッズを創出します。

グッズ購入はこちらから

異言語SHOP ➡

より詳しい情報はこちらへ！

異言語 Lab. 公式サイト　異言語脱出ゲーム公式サイト

組 織 名 称 一般社団法人異言語 Lab.

設立年月日 2018 年 4 月 13 日

主な活動内容

1. 異言語脱出ゲーム、手話や視覚身体言語を使った体験型エンターテイメントの開発及び企画・提供
2. コミュニケーションツール・キットの開発・提供
3. 当法人に関する広報活動
4. 手話や視覚身体表現言語のワークショップの企画・開催
5. 前各号に附帯、 又は関連する事業

E-mail info@igengo.com

本資料は東京ボランティア・市民活動センターが東京都福祉保健局の補助事業として実施している『東京 D&I プロジェクト』の助成金で作成しました。